

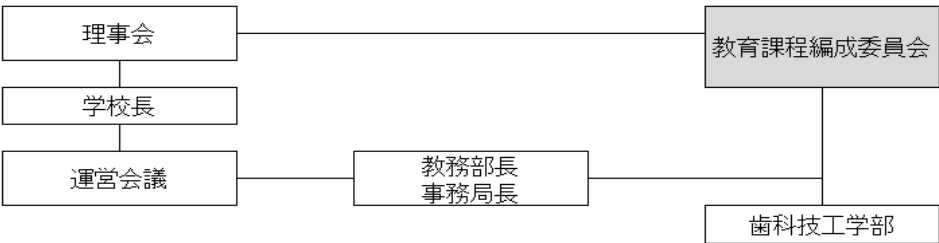
職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
新東京歯科技工士学校		昭和56年3月30日		宮崎 隆		〒 143-0016 (住所) 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人東京滋慶学園		昭和61年2月1日		中村 道雄		〒 143-0016 (住所) 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
医療	歯科技工士専門課程	歯科技工士科午後部		平成22(2010)年度	-	平成30(2018)年度			
学科の目的		知識・技術・豊かな表現力を活かし、CGデザインや歯科用CADの知識・技術を身につける							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		歯科技工士							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3	年間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 104 単位	単位時間 37 単位	単位時間 9 単位	単位時間 58 単位	単位時間 0 単位	単位時間 0 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
105 人	57 人	9 人		16 %					
就職等の状況 (旧学科名:歯科技工士科Ⅱ部の実績)	■卒業者数(C)		10 人						
	■就職希望者数(D)		8 人						
	■就職者数(E)		8 人						
	■地元就職者数(F)		1 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		80 %						
	■進学者数		1 人						
	■その他								
	学校内転科1名								
(令和 5 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 歯科技工所									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科の ホームページ URL	歯科技工士科午後部 https://www.dt.ntdent.ac.jp/department/dept2/								
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間					
うち必修授業時数				単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間					
	(B:単位数による算定)								
	総授業時数				104 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				20 単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数				4 単位					
うち必修授業時数				104 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				20 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				4 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				5 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				4 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				5 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				4 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
教育課程の編成において、業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、必要となる最新の知識・技術を反映するため、企業・業界団体等の意見を活かし、教育課程の改善及び改訂を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、教育課程を決定する「理事会」の直下に位置付けられ、教育課程編成委員会で出された意見は、運営会議にて改善案を起案し、理事会において審議され教科課程へ反映される。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
山下 茂子	一般社団法人日本歯科技工学会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②
大学 泉介	一般社団法人千葉県歯科技工士会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
白石 大典	有限会社湘南セラミック	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
石島 学	アライン・テクノロジージャパントリート合同会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
岩村 勇	学校法人 東京滋慶学園 評議員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
宮崎 隆	新東京歯科技工士学校 学校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
関口 崇之	学校法人 東京滋慶学園 副運営本部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
今井 リカ	新東京歯科技工士学校 事務局長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
印南 秀	新東京歯科技工士学校 学部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
富野 浩子	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(3年)	—
君塚 友見	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(4年)	—
馬場 知子	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(5年)	—
西村 充剛	新東京歯科技工士学校 キャリアセンター長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(4年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月23日 18:00～20:00

第2回 令和6年10月24日 18:00～20:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ①「ビジネスコミュニケーションスキル」の科目を設置し、社会人基礎力としてのコミュニケーション力やビジネスマナーを業界と連携して学ぶ内容に変更した。
- ②「CAD/CAM基礎」「CAD/CAM応用Ⅰ」などデンタルCAD関連の授業について、実践力を身につけるために授業時間数を変更し、繰り返し実践できる内容に変更した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

在学中に、様々な臨牀的実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

セラミック加工実習Ⅲでは、連携している歯科技工所の方に来校していただき、セラミックの築盛方法について臨牀においても高度といわれる技術を指導していただく。評価は製作した完成作品により行っている。

CAD/CAM基礎では、連携している企業の方に来校していただき、歯科用CAD/CAMシステムの基本操作やデザインの手順について指導していただく。評価は提出作品と実技試験により行っている。

イラスト・デザインⅠでは、連携しているデザイン会社のデザイナーの方に来校していただき、CGデザインソフトの基本操作について技術指導をしていただく。提示したテーマについて自主制作した課題作品により評価している。

情報基礎技術では、連携しているシステム関連企業の方に来校していただき、コンテンツ制作やCADデザインに必要なPCの基本操作について指導していただいている。評価は制作した完成作品および、作品を用いたプレゼンテーションの内容により行っている。

CAD/CAM応用Ⅰでは、連携している企業の方に来校していただき、歯科用CAD/CAMシステムを用いた臨牀的な歯のデザインについて指導していただく。評価は提出作品と実技試験により行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
情報技術基礎	情報リテラシーを理解し、パソコン等を安全に正しく利用するための方法や基本操作について理解することを目標とする。	(株)BSC
セラミック加工実習Ⅲ	各種セラミックスを用いた補てつ物について、臨牀的な審美技工の手技について理解を深めることを目標とする。	(株)オーリアラ
イラスト・デザインⅠ	CGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作できることを目標とする。	イナマス合同会社
CAD/CAM基礎	歯科用CADの概説を学び、歯科専用ソフトウェアの種類や特徴を理解することを目標とする。	アスパイアデンタル CADデザインwebスクール
CADCAM応用Ⅰ	歯科用CADソフトを用いて、臨牀的な歯のデザインができるようになることを目標とする。	アスパイアデンタル CADデザインwebスクール

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

業界と連携し、学会発表のための共同研究や企業主催の研修に積極的に参加する。

学部長、学科長中心に年間の研修を企画し、上記の研究成果や研修で得られた知識を学内で共有する。

※教員研修規程からの抜粋

第2条 研修は、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。

第4条 法人本部並びに学校は、教員の研修計画を策定、実施し、教員に研修を受ける機会を与えなければならない。

2 法人本部または学校が必要と認めるとき、他の機関と共同または委託し、研修を行うことができる。

第6条 教員は、日常の勤務を通し必要な研修を受けるものとする。

2 日常勤務を通した研修は、教員の監督者がその計画を策定、実施する。

(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 日本臨床歯科臨床学会	連携企業等: 日本臨床歯科補綴学会	
期間: 6月30日(日)	対象: 専任教員	
内容: 咬合構成の基準を再考する		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: FDマイクロレベル〈クラスマネジメント〉研修 I	連携企業等: 滋慶教育科学研究所	
期間: 3月19日～4月8日	対象: 専任教員	
内容: 学生の変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を修得する。		
研修名: FDマイクロレベル〈スタート〉研修 I	連携企業等: 滋慶教育科学研究所	
期間: 3月19日～4月8日	対象: 専任教員	
内容: 学生の変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を修得する。		
研修名: 新入職者研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所	
期間: 3月19日～4月8日	対象: 教職員	
内容: 滋慶学園グループを知り、自分らしさを活かして仕事を楽しむ		
研修名: 滋慶EASTマネージャー研修	連携企業等: EAST人事・採用センター	
期間: 5月10日	対象: 教職員	
内容: マネージャーの役割としてのの人材育成について学び、マネージャーとしての視点を上げる。		
研修名: キャリアサポートアンケート勉強会〈ビギナー研修〉	連携企業等: 滋慶教育科学研究所	
期間: 6月5日～7月26日	対象: 専任教員	
内容: 『JESCキャリアサポートアンケート』の学生の傾向と問題状況の読み取り方、学生指導への活用方法を学ぶ		
研修名: FDマイクロレベル研修Ⅱ	連携企業等: 滋慶教育科学研究所	
期間: 6月14日	対象: 専任教員	
内容: 授業改善の工夫および、クラスの成長をするためのコーチングの基礎を学び、実践することができる。		
研修名: 学校を続けていける力を支える	連携企業等: JTSC滋慶トータルサポートセンター	
期間: 5月21日	対象: 専任教員	
内容: 学生情報から学生支援の対策や時期を考える。		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 実技研修会Ⅱ	連携企業等: 全国歯科技工士教育協議会	
期間: 8月27日	対象: 専任教員	
内容: 光学印象の保険収載による歯科技工業界における期待と不安		
研修名: 特別講習会	連携企業等: 全国歯科技工士教育協議会	
期間: 10月12日	対象: 専任教員	
内容: 歯科技工に関する情報セキュリティ等を学習する。		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 教職員カウンセリング研修〈Ⅰ次研修〉	連携企業等: 滋慶教育科学研究所	
期間: 事前学習7月1日～8月31日 講義9月25日～9月27日	対象: 専任教員	
内容: カウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置く。
評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
国家試験合格率向上のための、教育システムの改善を図る。学生が学校に通いたい、学びたいと感じられるような魅力のある将来像を産学連携を通じて未来をみせていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
中村 八大	株式会社テクニカルセンター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
時田 将吾	歯科技工士科 I 部在校生保護者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者
木村 正	一般社団法人日本歯科技工所協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
河野 勉	大森歯科医師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域等委員
森 章	拓殖大学紅陵高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://www.dt.ntdent.ac.jp/information/>
公表時期: 令和6年6月24日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

歯科業界の動向や最新の技術について情報提供していただき、カリキュラムの見直しを図る。

また、学生の進路決定や将来の目標設定させる際の参考とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.dt.ntdent.ac.jp/information/>

公表時期: 令和6年6月24日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			導入教育	3年間で学ぶカリキュラムの科目の目的を理解し、専門教育への移行をスムーズにすることを目標とする。	1年次前期	1	15		○		○		○		
2	○			情報技術基礎	情報リテラシーを理解し、パソコン等を安全に正しく利用するための方法について学ぶことを目標とする。	1年次前期	1	15		○		○			○	○
3	○			CAD/CAM基礎	歯科用CADの概説を学び、歯科専用ソフトウェアの種類や特徴を理解することを目標とする。	1年次前期	1	30			○	○		○		○
4	○			美術造形・デッサン	デッサンや造形、彩色を通して形態のとらえ方や表現力を身につけ、立体的形態の表現力および色彩感覚を養うことを目標とする。	1年次前期	1	30			○	○			○	
5	○			外国語	歯科医療従事者として、円滑なコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。	1年次前期	1	15	○			○			○	
6	○			歯科技工学概論	歯科医療に関する全般的な知識、歯科疾患・歯科治療の概要や歯科技工物についての概要および歯科に関する専門用語について理解することを目標とする。	1年次前期	1	15	○			○		○		
7	○			臨床歯科概論	歯科医療の臨床現場について多角的に学ぶ。感染症および感染症予防についても理解し実践できるようにすることを目標とする。	1年次後期	1	15		○		○	○	○		○
8	○			歯科技工士関係法規	「歯科技工士」として業務を行うために必要な「歯科技工士法」を中心に、「衛生行政」「歯科医療関係法規」についての理解を深めることを目標とする。	2年次後期	1	15	○			○		○		
9	○			歯の解剖学Ⅰ	歯についての概説と永久歯の形態的特徴を学び、歯の種類と名称、歯の記号と歯式、歯の方向と部位を表す用語を理解することを目標とする。	1年次前期	1	15	○			○		○		
10	○			歯の解剖学Ⅱ	筋の動きを中心とした口腔機能や歯の発生機構、硬組織および歯周組織について、構造と経年変化について理解することを目標とする。	1年次前期	1	15	○			○		○		
11	○			歯型彫刻・デッサンⅠ	16の面取り、荒彫り、仕上げ彫りを理解し、16の形態的特徴を表現できることを目標とする。	1年次前期	1	30			○	○		○		
12	○			歯型彫刻・デッサンⅡ	46の面取り、荒彫り、仕上げ彫りを理解し、46の形態的特徴を表現できることを目標とする。	1年次後期	1	30			○	○		○		
13	○			歯型彫刻・デッサンⅢ	11、26、36の面取り、荒彫り、仕上げ彫りを理解し、それぞれの形態的特徴を表現できることを目標とする。	2年次前期	1	30			○	○		○		

[illegible]

30	○		有床義歯応用実習Ⅰ	全部床義歯(総入れ歯)の理論と製作技術について学び、人工歯排列、歯肉形成、フラスコ埋没、流蟄について手順を理解することを目標とする。	2年次前期	1	30			○	○		○				
31	○		有床義歯応用実習Ⅱ	全部床義歯(総入れ歯)の理論と技術について学び、レジン填入、重合、掘り出し、削合、研磨について手順を理解することを目標とする。	2年次前期	1	30			○	○		○				
32	○		デンチャーデザインⅠ	金属床義歯の製作に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。金属床義歯の特徴、製作法(アナログとデジタル)、またその製作にあたり必要となる知識を総合的に復習し理解を深めることを目的とする。	2年次後期	1	30			○	○		○				
33	○		デンチャーデザインⅡ	金属床義歯の製作に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。金属床義歯の特徴、製作法(アナログとデジタル)、またその製作にあたり必要となる知識を総合的に復習し理解を深めることを目的とする。	2年次後期	1	30			○	○		○				
34	○		デンチャーデザインⅢ	金属床義歯の製作に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。金属床義歯の特徴、製作法(アナログとデジタル)、またその製作にあたり必要となる知識を総合的に復習し理解を深めることを目的とする。	2年次後期	1	15		○		○		○				
35	○		歯冠修復技工学Ⅰ	修復物を製作するために必要な、歯冠修復技工学の概要、クラウンの概要と種類、具備要件について理解することを目標とする。	1年次後期	1	15	○			○				○		
36	○		歯冠修復技工学Ⅱ	全部金属冠、部分被覆冠、作業用模型の製作法、辺縁形態について理解を深めることを目標とする。	1年次後期	1	15	○			○				○		
37	○		歯冠修復技工学Ⅲ	歯科治療の流れについて、印象採得、プロビジョナル、最終補てつ物までの製作工程を学び、理解を深めることを目標とする。	2年次前期	1	15	○			○		○				
38	○		歯冠修復技工学Ⅳ	歯科治療における製作ステップについて学び、ブリッジの概要と種類、ポンティック、連結法、インプラントについての理解を深めることを目標とする。	2年次前期	1	15	○			○		○				
39	○		歯冠修復技工学Ⅴ	新しい材料や治療の流れについて学び、デジタルを用いた修復物の製作について理解する。	2年次後期	1	15	○			○		○				
40	○		歯冠修復基礎実習Ⅰ	全部金属冠製作の手順について、ワックス操作、咬合、鑄造、研磨までの製作工程を学び、理解を深めることを目標とする。	1年次前期	1	30			○	○		○				
41	○		歯冠修復基礎実習Ⅱ	修復物製作(金属冠)の複数歯製作の手順について、ワックス操作、咬合、鑄造、研磨までの製作工程を学び、理解を深めることを目標とする。	1年次後期	1	30			○	○		○				
42	○		クラウン・ブリッジデザインⅠ	クラウン(臼歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	1年次前期	1	30			○	○		○				
43	○		クラウン・ブリッジデザインⅡ	クラウン(臼歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	1年次後期	1	30			○	○		○				
44	○		クラウン・ブリッジデザインⅢ	クラウン(前歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	2年次前期	1	30			○	○		○				

45	○		クラウン・ブリッジデザインⅣ	クラウン（前歯部）の製作（アナログとデジタル）に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	2年次前期	1	30				○	○		○			
46	○		クラウン・ブリッジデザインⅤ	ブリッジ（臼歯部）の製作（アナログとデジタル）に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触、ボンテックについて、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	2年次後期	1	30				○	○		○			
47	○		クラウン・ブリッジデザインⅥ	ブリッジ（前歯部）の製作（アナログとデジタル）に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触、ボンテックについて、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	2年次後期	1	30				○	○		○			
48	○		矯正歯科技工学	各種矯正装置の役割や製作法について学び、矯正用口腔模型の製作、矯正装置の必要条件と分類、矯正装置の製作法、保定装置の製作法についての理解を深めることを目標とする。	2年次前期	1	15	○				○		○			
49	○		矯正歯科技工実習	舌側弧線装置や保定装置の製作を通して、矯正歯科技工の手技や矯正装置についての理解を深めることを目標とする。	2年次前期	1	30				○	○		○			
50	○		小児歯科技工学	小児歯科で用いられる、歯冠修復の種類と特徴、保険装置、スペースリゲナー、口腔習癖除去装置について理解することを目標とする。	1年次後期	1	15	○				○		○			
51	○		小児歯科技工実習	小児歯科で用いられる、クラウンループ保険装置の目的、構成、製作方法について理解できることを目標とする。	2年次前期	1	30				○	○		○			
52	○		歯科技工実習Ⅰ	歯のデッサン、歯型彫刻、ワックスアップの基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	2年次後期	1	30				○	○		○			
53	○		歯科技工実習Ⅱ	歯のデッサン、歯型彫刻、ワックスアップ、全部床排列の基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	2年次後期	1	30				○	○		○			
54	○		歯科技工実習Ⅲ	歯のデッサン、歯型彫刻、ワックスアップ、全部床排列の基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	2年次後期	1	30				○	○		○			
55	○		セラミック加工実習Ⅰ	各種セラミックス素材について、成分による特徴、製作法、またその製作にあたり必要となる知識を総合的に理解することを目標とする。	3年次前期	1	30				○	○		○			
56	○		セラミック加工実習Ⅱ	各種セラミックス素材について、成分による特徴、製作法、またその製作にあたり必要となる知識を総合的に理解することを目標とする。	3年次前期	1	30				○	○		○			
57	○		セラミック加工実習Ⅲ	各種セラミックスを用いた補てつ物について、臨床的な審美技工の手技について理解を深めることを目標とする。	3年次前期	1	30				○	○		○		○	
58	○		課題研究実習Ⅰ	習得した知識・技術を結集して自主的に調べ、卒業課題研究作品を製作することを目的とする。計画して実行する力を養うことを目標とする。	3年次前期	1	30				○	○		○			
59	○		課題研究実習Ⅱ	歯科技工士としての専門性を磨き、各自の得意分野を伸ばすことを目的とする。卒業課題研究としてポートフォリオを作成し発表することを目標とする。	3年次後期	1	30				○	○		○			
60	○		総合技工実習Ⅰ	補てつ物、矯正装置の製作に必要な基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「応用力」「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	3年次後期	1	30				○	○		○			

61	○		総合技工実習Ⅱ	補てつ物、矯正装置の製作に必要な基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「応用力」「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	3年次後期	1	30			○	○		○				
62	○		総合技工実習Ⅲ	補てつ物、矯正装置の製作に必要な基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「応用力」「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	3年次後期	1	30			○	○		○				
63	○		ビジネスコミュニケーションスキル	仕事をしていく上で必要なコミュニケーションについて、また社会人基礎力について実践的に学ぶ。	1年次後期	1	15			○		○		○	○	○	
64	○		キャリアデザイン	企業見学や業界講演を通して、業界で求められる人材について理解し、卒業後のキャリアプランを計画することを目標とする。	2年次前期	1	15			○		○		○			
65	○		実習トレーニングⅠ	歯科技工について、実習で身につけた技術を総合的に繰り返し練習し、スピードと正確さを身につけることを目標とする。	3年次後期	1	30			○	○		○				
66	○		実習トレーニングⅡ	歯科技工について、実習で身につけた技術を総合的に繰り返し練習し、スピードと正確さを身につけることを目標とする。	3年次後期	1	30			○	○		○				
67	○		実習トレーニングⅢ	歯科技工について、実習で身につけた技術を総合的に繰り返し練習し、スピードと正確さを身につけることを目標とする。	3年次後期	1	30			○	○		○				
68	○		モデリング&デザインⅠ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次前期	1	30			○	○				○		
69	○		モデリング&デザインⅡ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次前期	1	30			○	○				○		
70	○		モデリング&デザインⅢ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次後期	1	30			○	○				○		
71	○		モデリング&デザインⅣ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次後期	1	30			○	○				○		
72	○		モデリング&デザインⅤ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	2年次前期	1	30			○	○				○		
73	○		モデリング&デザインⅥ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	2年次後期	1	30			○	○				○		
74	○		モデリング&デザインⅦ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	3年次前期	1	30			○	○				○		
75	○		モデリング研究制作Ⅰ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、自分の作品ポートフォリオを制作し、業界の方に向けてプレゼンテーションを行う。	2年次前期	1	30			○	○				○		
76	○		モデリング研究制作Ⅱ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、自分の作品ポートフォリオを制作し、業界の方に向けてプレゼンテーションを行う。	3年次前期	1	30			○	○				○		
77	○		イラスト・デザインⅠ	IllustratorをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次前期	1	30			○	○				○		

78	○		イラスト・デザインⅡ	IllustratorをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的かつ段階的に学ぶ。	1年次前期	1	30			○	○			○	
79	○		イラスト・デザインⅢ	IllustratorをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的かつ段階的に学ぶ。	3年次前期	1	30			○	○			○	
80	○		CAD/CAM応用Ⅰ	歯科用CAD/CAMソフトを用いて基本操作から応用的な臨床の症例までを実践的かつ段階的に学ぶ。	1年次後期	1	30			○	○			○	○
81	○		CAD/CAM応用Ⅱ	歯科用CAD/CAMソフトを用いて基本操作から応用的な臨床の症例までを実践的かつ段階的に学ぶ。	1年次後期	1	30			○	○			○	○
82	○		CAD/CAM応用Ⅲ	歯科用CAD/CAMソフトを用いて基本操作から応用的な臨床の症例までを実践的かつ段階的に学ぶ。	3年次前期	1	30			○	○			○	○
83	○		CAD/CAM応用Ⅳ	歯科用CAD/CAMソフトを用いて基本操作から応用的な臨床の症例までを実践的かつ段階的に学ぶ。	3年次前期	1	30			○	○			○	○
84	○		CAD/CAM応用Ⅴ	歯科用CAD/CAMソフトを用いて基本操作から応用的な臨床の症例までを実践的かつ段階的に学ぶ。	3年次後期	1	30			○	○			○	○
85	○		CAD/CAM応用Ⅵ	歯科用CAD/CAMソフトを用いて基本操作から応用的な臨床の症例までを実践的かつ段階的に学ぶ。	3年次後期	1	30			○	○			○	○
86	○		インターンシップⅠ	就業体験を通して、授業で学んだ知識や技術を業界の現場で実践しブラッシュアップすることを目指す。。	2年次後期	2	60			○	○	○	○		
87	○		インターンシップⅡ	就業体験を通して、授業で学んだ知識や技術を業界の現場で実践しブラッシュアップすることを目指す。。	3年次前期	3	90			○	○	○	○		
88	○		総合歯科技工学Ⅰ	歯科技工士に必要な知識を総合的に学び、知識を定着させることを目標とする。	2年次後期	2	30	○			○			○	
89	○		総合歯科技工学Ⅱ	歯科技工士に必要な知識を総合的に学び、知識を定着させることを目標とする。	3年次前期	4	60	○			○			○	
90	○		総合歯科技工学Ⅲ	歯科技工士に必要な知識を総合的に学び、知識を定着させることを目標とする。	3年次後期	4	60	○			○			○	
91	○		総合歯科技工学Ⅳ	歯科技工士に必要な知識を総合的に学び、知識を定着させることを目標とする。	3年次後期	4	60	○			○			○	
合計					91	科目	104 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：学年ごとに必須単位数を修得し進級する。		1 学年の学期区分	前・後 期
履修方法：全科目履修で卒業となる。		1 学期の授業期間	24 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。